

# がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

## ～がんの治療を受けながら働きたい方へ～ がん患者さんのためのハローワークによる 就職相談を始めました

がんの患者さんにとって働くことは、収入の糧としての経済的安定だけでなく、生きがいにもつながるものです。しかし、がん罹患後に退職される方が2～3割あるという調査結果があるなど、検査や入院等の治療により、離職を余儀なくされる場合や、転職を考えざるを得ない場合も多くあります。

このような状況を踏まえ、当院では、がん患者さんが治療を受けながら働き続けられるよう、平成27年8月から病院内で、ハローワークと協働した就職相談を行っています。



- ・自分の病状、体力に合った仕事を見つけたい。
- ・もう何年も仕事をしていない。自分が働けるようなところはあるのだろうか。
- ・今の職場での継続は難しい。新しい仕事を探したい。
- ・就職活動で、企業に病気のことを伝えるべきかどうかが迷っている。
- ・仕事復帰に際して、どんなスキルが必要か知りたい。

このような相談に、ハローワーク名古屋東のキャリアコンサルティングの資格を持つ「就職支援ナビゲーター」が、ご本人の適性、病状、治療状況等を考慮して、各相談者に合った仕事探しをマンツーマンでサポートしています。

これまでに15人ほどの方が新たに就職や職業訓練につながりました。

がんの治療を受けながら、患者さん一人で就職活動を行うのは負担が大きいと思います。仕事を探している方はぜひご利用ください。

### 予約制です

<開催日>毎週木曜日(祝日を除く)午前10時～午後4時30分

<問合せ・予約先>地域医療連携・相談支援センター(病院2階)

電話 052-762-6111(代表)

※ 愛知県がんセンター以外のがん患者さんも利用できます。



## 泌尿器科部長就任のあいさつ

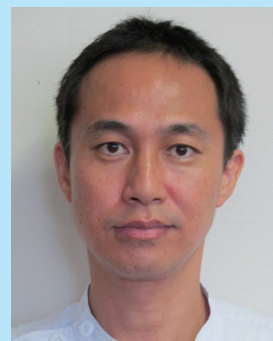
愛知県がんセンター中央病院で、2011年9月より勤務させていただき、2016年2月より泌尿器科部長に就任させていただきました。

勤務を開始してから、腎がん、副腎腫瘍に対する腹腔鏡手術、前立腺がんに対する小切開手術（ミニマム創手術）を導入し、専門である泌尿器領域がんに対する低侵襲手術治療を拡充してまいりました。また、2015年10月より、最新型手術支援ロボットであるダヴィンチXiを使用した前立腺全摘除を開始し、従来から行っている放射線治療（内照射、外照射：IMRT）と合わせて、前立腺がんに対する全治療選択を提供できる体制が整備できました。がんに対する低侵襲治療は、創部は小さく、内部の腫瘍周囲は根治を目指し拡大切除することが必要であり、それを実践していくことを信条としています。

また、手術支援ロボットを使用した腹腔鏡手術と、小切開手術（ミニマム創手術）を両方並行して行うことにより、一つの手技に固執しない低侵襲治療を提供できることが、当科の特色と考えています。

東海地方で尿路がんを発症した患者様が、まず愛知県がんセンター中央病院の泌尿器科に相談してみようと思っただけのように発展させていくことが目標です。

その目標に向かい、他のスタッフと一丸となって、安全、安心していただける、がん治療の推進をしていきますので、ご指導よろしくお願いたします。



愛知県がんセンター  
中央病院 泌尿器科部長

曾我 倫久人

## 大規模災害時における地域との支援協定を結びました

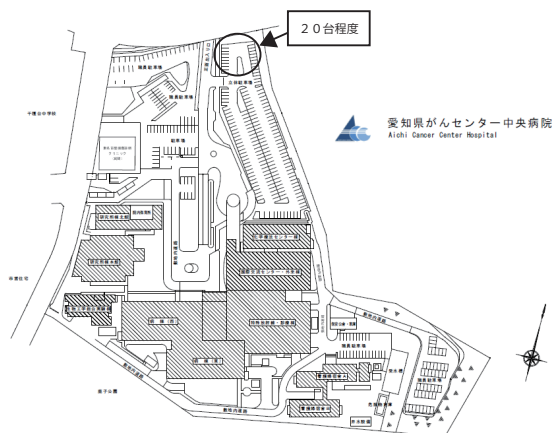
平成28年3月1日に千種消防署の仲介により、富士見台学区防災安心まちづくり委員会と大規模災害時における地域協力協定を締結しました。

緊急時における一時的な避難場所として、外来駐車場の北側20台程度のスペースを提供するものです。

がんセンターは災害拠点病院ではなく直接被災者の救護を行うわけではありませんが、地震などの大規模な災害時に、少しでも地域に貢献できることはないかという視点から考慮した取り組みです。



前列左から杉本千種消防署長、丹羽病院長、  
大脇富士見台学区委員長、  
足立富士見台学区消防団長



## 脳神経外科部長就任のあいさつ

平成28年3月1日付で脳神経外科部長として着任しました服部和良です。私の着任まで脳神経外科は長年にわたり代務医による非常勤診療を行ってききましたが、この度、常設科として整備してゆくこととなりました。

私は、昭和56年に医学部を卒業し、静岡済生会病院で医師としてのスタートを切り、その後は、名古屋大学附属病院、国立名古屋病院、静岡済生会総合病院、岐阜県立多治見病院、岐阜社会保険病院、中部ろうさい病院で脳神経外科医として勤務してきました。この間、国立名古屋病院では恩師桑山明夫先生に師事し、400例を超える経鼻下垂体手術を経験させて頂きました。その後は、急性期病院で脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍など多くの患者さんを治療してきました。

このような臨床経験を生かして、がんセンターに特色ある脳神経外科の診療環境を築いてゆければ、と思います。手術環境や人的資源を整えることが当面の課題ですが、まずは院内のニーズに応え、他科で治療中の患者さんの中枢神経系の問題の解決に寄与することが足固めかと思えます。その後は、環境の整備に伴い転移性脳腫瘍の手術、そして良性、悪性を含めた原発性脳腫瘍の治療へと診療範囲を広げていきたいと考えています。みなさまの温かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



愛知県がんセンター  
中央病院 脳神経外科部長

服部 和良



## 消化器内科部長就任のあいさつ

平成28年4月1日より消化器内科部長を拝命いたしました原和生です。輝かしい伝統と歴史のある愛知県がんセンター中央病院において、部長職を拝命されたことは大変な名誉であります。しかし、同時に大変な重責を背負った事にもなります。この重積に堪えるべく、あせらず堅実に歩んで行けたらと思います。

前任の山雄健次先生は、医学界に偉大な功績を残されました。今現在、日本中および世界中からも医師研修希望者が後を絶ちません。山雄先生が退職された後も、我々消化器内科チームは臆することなく、衰退することなく、チーム一丸となって前進していく所存です。我々消化器内科チームは、がん診療のプロフェッショナルとして自覚と誇りを持って日々診療にあたっています。最高のがん医療を提供するために、患者さんを尊重し、病気だけではなく患者さん自身を診察し、分かりやすい説明を行い、常に最新の医療を提供することを使命としています。最高のがん医療を提供することは、我々消化器内科チームだけでできる事ではありません。患者さんと職員の皆様のご指導とご協力なくしては到底達成できる事ではありません。どうか今後もより一層のご理解とご支援のほど宜しくお願い致します。

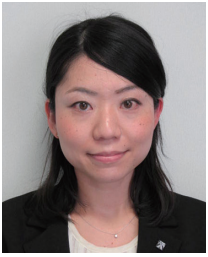


愛知県がんセンター  
中央病院 消化器内科部長

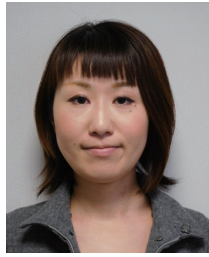
原 和生



— 私たち、新任doctorです —



消化器内科部  
奥野 のぞみ



内視鏡部  
大西 祥代



呼吸器内科部  
渡辺 尚宏



形成外科部  
橋 五月



乳腺科部  
小谷 はるる



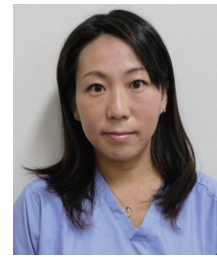
乳腺科部  
権藤 なおみ



消化器外科部  
大城 泰平



麻酔科部  
原 真人



麻酔科部  
梶井 都紀子

全力で頑張りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

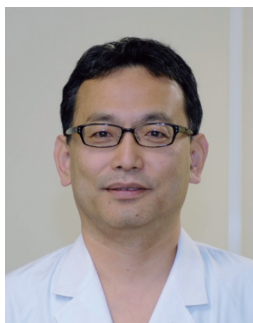
— 日本女子プロゴルフ協会からご寄付 —

昨年12月に三好カントリー倶楽部で開催された4大ツアーの団体戦『THE QUEENS presented by KOWA』で優勝したLPGA of JAPANチームの獲得賞金の一部（100万円）をご寄付いただきました。選手同士で話し合い、開催地に還元できるよう、女性特有のがん医療充実のために役立てて欲しいとの思いでのご寄付だということです。3月28日に、丹羽院長から、鈴木美重子LPGA副会長に感謝状をお渡しし、女性特有のがん医療充実のために使わせていただくことをお約束しました。



# 肝以外の悪性腫瘍へのラジオ波焼灼療法への取り組み

中央病院 ～放射線診断・IVR部～



放射線診断・IVR部長

稲葉 吉隆

ラジオ波焼灼療法（radiofrequency ablation：RFA）は、腫瘍病変部に穿刺した電極針に高周波（ラジオ波）電流を通電することによって病変を熱凝固（壊死）させる治療法です。

現在、肝がんに対する治療のみが保険適用となっており、経皮的、開腹下または腹腔鏡下に行われます。放射線診断・IVR部では、超音波やCTといった画像で確認しながら病変を穿刺して治療する経皮的RFAを行っており、通常3 cmまでの肝がんが治療対象となります。

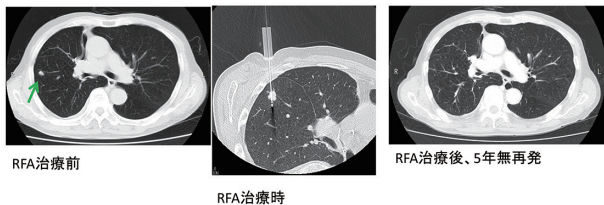
肺、腎、副腎、骨など、肝以外の悪性腫瘍においても経皮的RFAは高い抗腫瘍効果が報告されていますが、保険適用がない状況です（写真1）。当院では、2016年1月より肝以外の悪性腫瘍に対するRFAによる治療は自費診療で対応することとなりました。また、2016年3月にはIVR-CT装置が更新となり、2基のIVR-CT装置による経皮的RFAをはじめとしたIVR治療を多角的に行える診療体制となっています（写真2）。

とくにRFA治療を望まれる小型肺がん症例に応えたいと思います。基本的には、大きさが3 cm以下で数が3個以下の病変が対象ですが、針の穿刺が困難な位置に存在する場合、心臓・大血管、消化管などに近接している場合などでは治療が行えないこともありますので、ご相談ください。

## 肺悪性腫瘍へのRFA

- ・ 保険適用外治療（RFAは肝がんのみが保険適用）
- ・ 低侵襲性治療として期待される

肺腺癌症例



RFA治療前

RFA治療時

RFA治療後、5年無再発

写真1

## IVR-CT装置



写真2

## 診療医の紹介

中央病院 放射線診断・IVR部

この4月より新メンバーが加わり、スタッフ6名、レジデント5名の総勢11名となりました。当科メンバーは放射線診断専門医に加え、IVR・消化器病・薬物療法・救急などの専門医資格も有し、がんの画像診断（CT、MRIなどを用いた、病気の診断、治療効果判定、再発の有無の確認など）、IVR（カテーテル治療を代表とする画像誘導下の各種治療・検査）、主に肝臓がん患者さんに対する抗がん剤治療など、他の科とも連携しながら幅広く診療を行っています。



後列左から：守永広征（シニアレジデント）、山口久志（レジデント）、加藤弥葉（医長）、長谷川貴章（シニアレジデント）、金原佑樹（シニアレジデント）、村田慎一（医長）  
前列左から：今井勇伍（レジデント）、小野田結（医長）、稲葉吉隆（部長）、山浦秀和（医長）、佐藤洋造（医長）

# ガンマデルタT細胞を利用した神経芽腫の新しい治療のための基盤研究 研究所 ～腫瘍免疫学部～

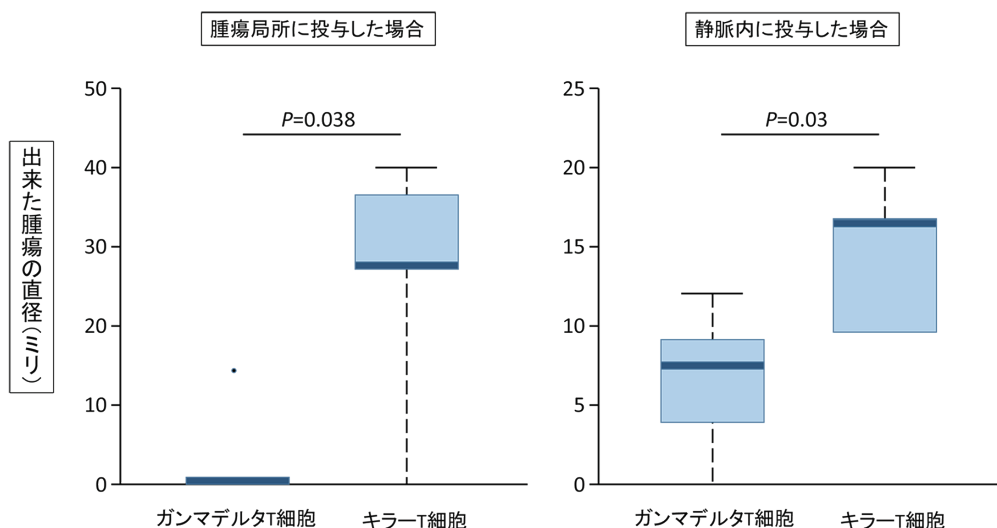


腫瘍免疫学部長  
葛島 清隆

神経芽腫は小児のがんです。その一部は、手術、放射線治療、大量化学療法などの治療に抵抗し、生存率は30-40%程度です。このため、新たな治療法の開発が望まれています。今回、非蛋白抗原「ピロリン酸」を認識してがんを攻撃するガンマデルタT細胞に着目しました。ガンマデルタT細胞は、末梢血リンパ球中3-5%存在しますが、ビスフォスフォネートの刺激で数百倍に増殖します。増殖したガンマデルタT細胞は、ビスフォスフォネートで処理した神経芽腫細胞株を強く傷害します。

図はマウスの腎皮膜下に神経芽腫細胞株を移植した実験結果です。腫瘍移植と同じ場所にガンマデルタT細胞を輸中すると、多くのマウスで腫瘍生着が抑制されました（図左）。ガンマデルタT細胞を腫瘍から遠くの静脈内に接種しても、一定の効果が認められました。キラーT細胞ではあまり効果がありませんでした。神経芽腫では、キラーT細胞が標的とするHLAの発現が低下しているためと考えられます。

このマウスモデル実験から、ガンマデルタT細胞を使用した免疫療法は、神経芽腫に対する新しい治療になり得る可能性が示されました。

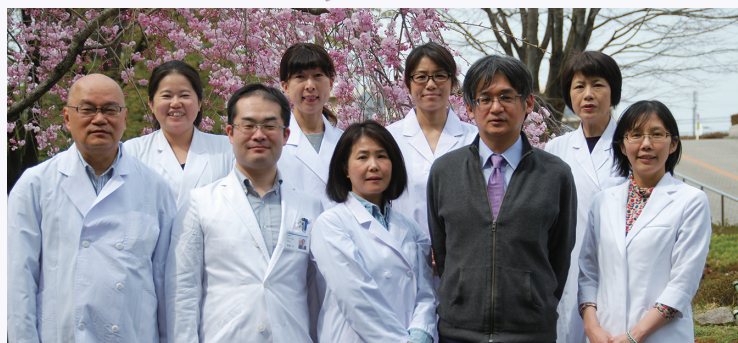


図の説明：マウスの腎被膜下に神経芽腫細胞株を接種し、腫瘍局所（図左）あるいは静脈内（図右）にガンマデルタT細胞を投与して効果を見た実験の結果です。キラーT細胞に比べて、ガンマデルタT細胞には腫瘍増大を抑制する能力がありました。

## 研究員の紹介

研究所 疫学・予防部

疫学・予防部は、愛知県がん登録事業などを通してがんの発症や死亡、がん患者の生存率をモニタリングし、がん対策に役立てる記述疫学研究、がんの発症原因を環境要因と遺伝的要因の両方から解明する分析疫学研究、および個別化がん予防法や効果的な禁煙支援法などの開発研究を行っています。正規研究員4名、リサーチレジデント1名、研究技師2名、客員研究員1名、名大連携大学院生2名の他、多くの非常勤職員に支えられ、また、中央病院の皆さんに助けられて、活動しています。



後列左から：渡邊美貴（技師）、中川弘子（リサーチレジデント）、吉村章代（連携大学院生）、伊藤智子（技師）  
前列左から：森島泰雄（客員研究員）、尾瀬功（主任研究員）、伊藤秀美（室長）、田中英夫（部長）、細野覚代（主任研究員）

# 血液がんの治療は進歩しています

中央病院 ～血液・細胞療法部～

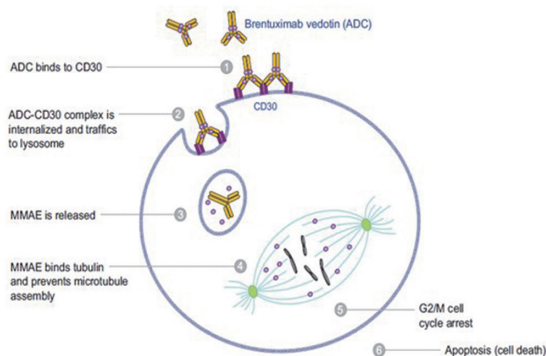
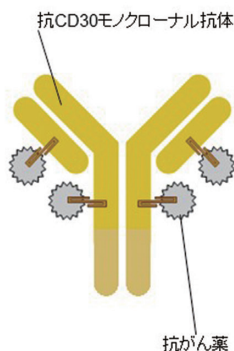


血液・細胞療法部長  
木下 朝博

血液がんって聞き慣れない言葉ですか？ 血液がんには白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などさまざまな疾患があります。これらは血液の細胞ががん化したものですが、元になる細胞が異なりそれぞれ特徴的な病像を示します。

血液がんは薬物療法（抗がん薬や分子標的治療薬など）、骨髄移植や末梢血幹細胞移植などの造血細胞移植、放射線治療などによって治療されます。これらの進歩によって治癒や延命が期待できるようになりました。たとえばB細胞リンパ腫に対する抗CD20モノクローナル抗体治療薬のリツキサンや慢性骨髄性白血病に対する分子標的治療であるグリベックによってこれら疾患に対する治療成績は飛躍的に向上しました。これらについては次世代の薬剤開発も進んでおり、たとえば抗体に抗がん薬を抱合した新しいタイプの薬物抱合モノクローナル抗体治療薬（図）やグリベックに続く新たなチロシンキナーゼ阻害薬などの開発が進んでいます。予後不良なタイプの白血病に対しては同種造血幹細胞移植が治療成績の向上に貢献しています。また多発性骨髄腫や再発・高リスク悪性リンパ腫に対しては自己末梢血幹細胞移植によって治療成績が向上しました。血液・細胞療法部ではこれからも新しい治療法の開発などを進め、血液がんに対する最先端の治療を提供してまいります。

## 薬剤抱合モノクローナル抗体治療薬 - Brentuximab vedotin



※左図の説明

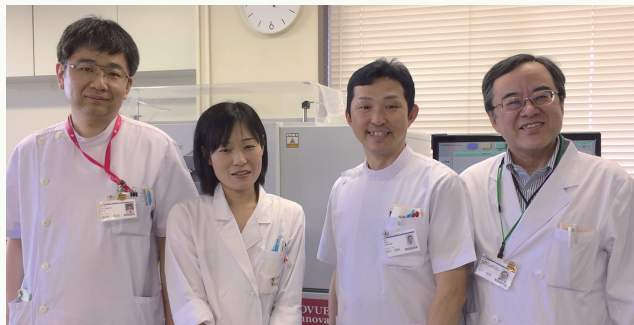
- ①リンパ腫細胞の表面にあるCD30に結合
- ②細胞へ取り込まれる
- ③抗がん薬が切り離される
- ④抗がん薬が細胞の分裂を阻害する
- ⑤細胞周期が停止する
- ⑥アポトーシスによって細胞が死ぬ

(Younes A, et al. NEJM 2010)

## スタッフの紹介

中央病院 輸血部

がん専門病院として良質で安全な医療のため、各部門と協力し適正かつ安全な輸血療法に必要な業務を行います。日本輸血・細胞治療学会の認定医制度指定施設であり、木下朝博部長（兼副院長）、早川英樹技師（学会認定技師）、片岡裕子技師、田地浩史医長（学会認定医）にて構成され、時間外緊急輸血に対しては臨床検査技師の協力のもと、生命に直結する輸血関連検査・特定生物由来製品の管理などの輸血業務を行います。院内輸血委員会を通じ、貴重な献血製剤の適正使用に取り組み、輸血管理料Ⅰの基準を充足し、自動輸血検査装置および輸血部門システムの更新を今春完了しました。今後も、皆様のご要請に応えるべく、質の向上に努めます。



右から：木下 朝博 部長（兼 血液・細胞療法部長、医療安全管理部長、副院長）、早川 英樹 技師、片岡 裕子 技師、田地 浩史 医長（兼 血液・細胞療法部医長）

—えーがや「昭和のヒーロー展」を開催—



平成28年4月7日からの2週間、作品を通して「似顔絵・ひとこま漫画」の面白さと可能性を伝えていく展覧会活動をしている、新川真澄氏・大岡立氏・小島とくたろう氏・ゴトー竜氏・佐藤正明氏の5名による似顔絵シネマ『えーがや』の展覧会がアトリウムで開催されました。

昭和のヒーロー達の特徴を絶妙にとらえた似顔絵に、「うまい、さすがプロの作品！」などの声が聞こえ、皆さんに笑顔と懐かしさをとどけてくれる展覧会でした。

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/</a> 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)  
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)  
※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分  
市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのご案内

- ◎一般道路  
本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西
- ◎高速道路  
東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分  
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。

